



元防衛官僚の警告・・・亡国の安保政策

元防衛庁官房長、第一次安倍内閣で安全保障担当の内閣官房副長官補を務めた柳澤協二氏は「亡国の安保政策・・・安倍政権と積極的平和主義の罫」という本を岩波から出している。この本には傾聴すべき事が幾つもある。

雷敷設を想定しているようだが、機雷封鎖したらイランは欧米から袋だたきにあう。

私は、せいぜい「攻撃したらホルムズ海峡を封鎖する」と牽制しているに過ぎないと思う。日本の防衛には関係ない話だ。

立法事実がない

氏は「周辺事態等と云うが具体的に何をどうしたいから新たな法律を作るのか、それが無い」と云う。

集団的自衛権行使容認

集団的自衛権行使とは日本が攻撃されていない時に自らの意志で米国とX国の戦争に参加すること。かえってX国からの攻撃を招く。

安倍自公政権は「避難民を乗せた米軍艦が攻撃されたら守らなくて良いのか？」と云うが、米軍艦を攻撃したら圧倒的な武力で反撃されるので攻撃される筈がない。あり得ない理由なのだ。

ホルムズ海峡の機雷封鎖を安倍自公政権は云々する。イランの機

これまで、九条があるから日本は武力を行使せず、他から攻撃されなかったのだ。平和主義というなら国際協調を促進する外交をすべきで、刀を振り回すことではないと思う。みなさんはどう思われますか？

に
かりようかみ
かわらせき

二ヶ領上河原堰

川崎市多摩区上布田
二〇一五年五月



2015.5.10 徹

多摩川の河口から二十キロ余り上流、狛江市と川崎市多摩区の間「二ヶ領上河原堰」がある。堰の上流は川幅いっぱい水面が広がる。堰の下流では川の中に椅子を据え、釣り糸を垂れている人も。

この堰は、川崎方面に流れる二ヶ領用水に水を供給する。多摩川と鶴見川の間にある川崎。水には恵まれていた筈なのに、どうして「用水」があるのか？

実は多摩川は流路がしよっちゅう変わる暴れ川だった。天正十八年（一五九〇年）の大洪水で流路が現在の方向に変わった。その為、幕府支配下の川崎領と稲毛領の二つの領地は水不足に。そこで、絵の場所に堰を設け、二つの領地に水を送る二ヶ領用水を作ったという。

先週はお休みしました